

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	体験型学習施設オリーブの樹		
○保護者評価実施期間	2025年1月6日		～ 2025年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年1月6日		～ 2025年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所のあるグラウンドを利用し、体幹等のトレーニングを実施できる	グラウンドだけでなく、様々な体幹を鍛える器具を利用し取り組みを行う グループ企業を利用し、サッカー療育や体幹トレーニング等質の高い療育を行う	さらに充実を図るための取組等、体幹や体のトレーニングを行うため、専門のトレーナー等でトレーニングを行う 場合によっては、さらに高いクラブチーム等の活用も進める
2	子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動が出来ており、さらに専門的知識のあるスポーツ指導員から体幹に伴う療育を行っている	個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作 訓練、創作的活動、機能訓練、集団生活適応訓練を日々の活動に取り入れている。 リトミックを通して、ソーシャルスキルトレーニングや即時反応を高める指導を行い、聴覚や集中力、自発性、表現力などへの働きかけを行っている。	個別療育を定期的に行った後に、保護者様に分かりやすくフィードバックできるツールの活用を検討する。 リトミックで培ったリズム感覚や表現力等を披露する機会を設ける。
3	保育士の加配に伴う手厚い支援体制が実現できている	加配加算などを利用し、10名に対し2名の指導員ではなく、利用児に対し手厚い支援ができるよう進める	今後さらに、専門的支援や、保育士などの加配などをすすめる

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の物理的問題があり、静養室と会議室が1つしかないの で、場合によって施設内の別設備を借用しなければならない事	施設に対して、スムーズな予約や会議等が行えるようになっていない	施設を利用する際は、予約をスムーズにできるよう簡素化しシステム化していくことをグループ内で検討していく
2	放課後等サービスや児童発達支援に必要な専門的支援の定期化が専門職員を配置できていない事から、満足いく支援ができていない	理学療法士や言語聴覚士などによるリハビリ系の支援のニーズが現状かなり高いが、専門職が不在で定期的な支援に至っていない。	保育士は配置できているが、リハビリ系の専門職の人材の配置と「専門的支援実施加算」を積極的に検討していく
3	保護者との面談や相談の中で関わり方や対応について、共に考え、意見交換していますが、家族等が参加できる研修を行っています。	現在、人数や保護者・職員の時間的余裕がなく、父母の会の設置ができていない。今後は保護者全体へのペアレント・トレーニングや研修会等を行うべく検討していきたい。	家族が参加できる研修の情報提供等を行い、ペアレントトレーニング等の内容を積極的にお伝えできるように努めています。